

高き志【こころざし】

「通知表」から大人が学ぶこと

「松のことは松に習え、竹のことは竹に習え」(松尾芭蕉)

解釈としては、「松のことが知りたければ、松に聞けばいい。竹のことが知りたければ、竹に聞けばいい。人に聞くよりも、直接その物に向き合ったほうが、物の本質は見てくるものである。」となるでしょうか。俳人らしい、奥の深い言葉です。

では、子供のことはどうでしょうか？…理解しているようで意外に知らない面が多いようです。今日、担任から子供たちに通知表を渡しました。この通知表から私たち大人が学ぶことは多々あるのではないかと思います。「子供のことは子供に習え」…子供のことがたくさん記されている通知表を介して大人は何か学べないでしょうか。

まずは、学校としてですが、子供たちの学習の結果は、私たち教師にとっては指導の結果でもあることを深く認識したいと思います。私たち教師の世界には「指導と評価の一体化」という言葉があります。「指導したことを評価し、評価したことを指導に生かす。」と説明すればより分かりやすいかと思えます。したがって、今回の通知表の内容は指導した結果をお伝えしたものではありません。私たちにとっては、今後の指導改善に生かすためのものでもあります。また、学力を向上させるためには、指導技術を身に付ければよいというものではありません。子供一人一人に様々なつまづきの原因があります。それは、個々の能力だけではなく、学校や家庭における人間関係、生活習慣、環境条件と様々です。これらの把握、分析、改善なしに指導技術だけでは子供に力はつきません。通知表には、それらの一端も記されています。

つまり、通知表は「教師の教育指導反省簿」と位置づける必要があるということです。

次に、ご家庭のことで考えてみましょう。まずは、しっかりと読んでいただき、子供の学校での様子を少しだけでも理解していただくことが大切だと思います。そして通知表には、必ずその子の伸びた点や良い行動等が書かれています。そのことを具体的にほめていただくことが効果的です。人間的な成長も含めて努力した点をしっかりと評価していただきたいし、そのことで子供は、さらに大きく成長すると考えるからです。加えて、今後努力してほしい面が書いてあることもあると思います。その場合は、しっかりと励ましていただければと思います。

学校と家庭がベクトルを揃え、同じ方向性でほめ、励ましていくことで子供は変わると思えます。

また、全員の通知表に書いてあることではありませんが、子供の成長の阻害要因を学校と家庭で協力して改善していくことも重要です。

阻害要因の一つに「規範意識・他者意識の不足」があります。本校の児童に良い面はたくさんあるのですが、全体的には規範意識・他者意識の面で課題を抱えていることも事実です。主な実態として、平気で廊下を走る、トイレのスリッパが並ばない、忘れ物が多い、挨拶が良くない等があります。これらは、通知表には書きにくい面があり、個人の課題として表に出にくいのですが、学校としての大きな大きな課題です。義務教育を受けている段階でしっかりと身に付けてほしい力ですし、健全な成長の中に含まれる学力向上の阻害要因にもなっていると思います。

規範意識や他者意識は一朝一夕に身につくものではありません。逆の視点から見れば、子供たちのこれまでの生活経験(もちろん、学校での教育も含め)すべてが、これらの意識不足を生んでしまっていると言えるでしょう。これらの実態を共有し、解決に向け足並みを揃えることができればと思っています。

学校では、上記の課題に対して、今後も様々な手立てを打っていく予定です。

ご家庭でも方向性を揃えていただき、共に子供たちの未来を明るいものにしていきましょう。明日からは冬休みです。この時期だからこそできることがいろいろありそうな気がします。

こう考えると、大人にとっての通知表は、「教師の教育指導反省簿」であると同時に、「学校と家庭の教育方針共有簿」とも言えると思います。